

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 60-139679

(43)Date of publication of application : 24.07.1985

(51)Int.Cl.

C07D277/66
 C07D417/12
 // A61K 31/425
 A61K 31/445
 A61K 31/495
 A61K 31/495
 (C07D417/12
 C07D277:00
 C07D211:00)

(21)Application number : 58-251934

(71)Applicant : SANTEN PHARMACEUT CO LTD

(22)Date of filing : 27.12.1983

(72)Inventor : IWAO JUNICHI
 ISO TADASHI
 OOYA MASAYUKI

(54) 2-ARYLBENZOTHAZOLINE DERIVATIVE

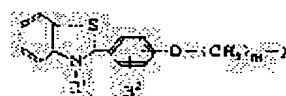
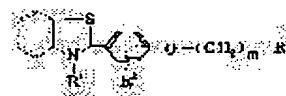
(57)Abstract:

NEW MATERIAL: A 2-aryl-benzothiazoline derivative expressed by formula I (R¹ is lower alkanoyl or formyl; R² is one or plural groups selected from H, lower alkyl, lower alkoxy, hydroxy, halogen, nitro, halogeno lower alkyl or sulfamoyl; R³ is expressed by formula II or III, etc.; R⁴ is benzylcarbonyl, etc.; R⁵ is phenoxy-lower alkylene, etc.; m is an integer 1W6).

EXAMPLE: 3-Acetyl-2-[5-methoxy-2-[4-[4-(4-methoxybenzoyl)-1-piperidyl]butoxy]phenyl]benzothiazoline oxalate.

USE: Useful as a remedy for angina pectoris, arrhythmia and thrombosis, etc. having pharmacological action, e.g. inhibitory action on blood platelet agglutination, calcium antagonistic action, etc.

PREPARATION: A compound expressed by formula IV (X is halogen) in reacted with an amine derivative expressed by formula V to afford the aimed compound expressed by formula I.



⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭60-139679

⑬ Int. Cl.

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和60年(1985)7月24日

C 07 D 277/66
417/12
// A 61 K 31/425
31/445
31/495

ACB
ABQ
ABS
ADD

7330-4C
7431-4C

(C 07 D 417/12
277:00
211:00)

審査請求 未請求 発明の数 1 (全7頁)

⑮ 発明の名称 2-アリールベンゾチアゾリン誘導体

⑯ 特 願 昭58-251934

⑰ 出 願 昭58(1983)12月27日

⑱ 発 明 者 岩 尾 順 一 宝塚市野上4-7-27
⑲ 発 明 者 磯 正 堺市丈六197-7
⑲ 発 明 者 大 矢 正 雪 茨木市山手台3丁目27番18号
⑳ 出 願 人 参天製薬株式会社 大阪市東淀川区下新庄3丁目9番19号
㉑ 代 理 人 弁理士 滝川 敏雄

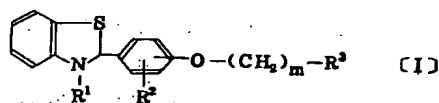
明 細 書

1. 発明の名称

2-アリールベンゾチアゾリン誘導体

2. 特許請求の範囲

式(I)で表わされる化合物およびその塩類。



〔式中〕

R¹は低級アルカノイル基またはホルミル基を示す。

R²は水素原子、低級アルキル基、低級アルコキシ基、ヒドロキシ基、ハロゲン原子、ニトロ基、ハロゲン低級アルキル基またはスルファモイル基から選択される一つまたは複数の基を示す。

R³は-N(R⁴)-, -N(R⁵)-, -N(R⁶)- または -N(R⁷)(R⁸)-を示す。

R⁴はベンジルカルボニル基、α-ヒドロキシベンジル基、置換ベンゾイル基、置換ベンジル

カルボニル基または置換α-ヒドロキシベンジル基を示し、該置換基は低級アルキル基、低級アルコキシ基またはハロゲン原子から選択される一つまたは複数の基を示す。

R⁵はフェノキシ-低級アルキレン基またはナフトルオキシ-低級アルキレン基を示し、該低級アルキレン基はさらに水酸基で置換されていてもよい。

R⁶は水素原子、低級アルキル基、低級アルコキシ基またはハロゲン原子から選択される一つまたは複数の基を示す。

R⁷は低級アルキル基、シクロヘキシル基、ベンゾイルオキシ-低級アルキレン基または R⁹-C₆H₄-(CH₂)_n を示し、該ベンゾイル基は低級アルキル基、低級アルカノイル基またはハロゲン原子から選択される一つまたは複数の基で置換されていてもよい。

R⁸はベンゾイルオキシ-低級アルキレン基または R¹⁰-C₆H₄-(CH₂)_n を示し、該ベンゾイル基は低級アルキル基、低級アルカノイル基またはハロゲン

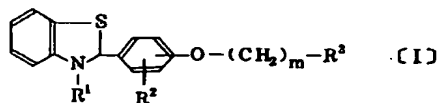
原子から選択される一つまたは複数の基で置換されていてもよい。

m は 1 ~ 6 を示す。

n は 3 ~ 5 を示す。]

3. 発明の詳細な説明

本発明は下記一般式〔I〕で表わされる新規ベンゾチアゾリン誘導体およびその塩類に関する。



〔式中、

R¹ は低級アルカノイル基またはホルミル基を示す。

R² は水素原子、低級アルキル基、低級アルコキシ基、ヒドロキシ基、ハロゲン原子、ニトロ基、ハロゲン低級アルキル基またはスルファモイル基から選択される一つまたは複数の基を示す。

R³ は --N--R^4 、 --N--R^5 、 --N--S--R^6 または --N--R^7 を示す。

R⁴ はベンジルカルボニル基、α-ヒドロキシベンジル基、置換ベンゾイル基、置換ベンジルカルボニル基または置換α-ヒドロキシベンジル基を示し、該置換基は低級アルキル基、低級アルコキシ基またはハロゲン原子から選択される一つまたは複数の基を示す。

R⁵ はフェノキシ-低級アルキレン基またはナフトールオキシ-低級アルキレン基を示し、該低級アルキレン基はさらに水取基で置換されていてもよい。

R⁶ は水素原子、低級アルキル基、低級アルコキシ基またはハロゲン原子から選択される一つまたは複数の基を示す。

R⁷ は低級アルキル基、シクロヘキシル基、ベンゾイルオキシ-低級アルキレン基または $\text{R}^8\text{--C}_6\text{H}_4\text{--(CH}_2\text{)}_n$ を示し、該ベンゾイル基は低級アルキル基、低級アルカノイル基またはハロゲン原子から選択される一つまたは複数の基で置換されていてもよい。

R⁸ はベンゾイルオキシ-低級アルキレン基また

は $\text{R}^8\text{--C}_6\text{H}_4\text{--(CH}_2\text{)}_n$ を示し、該ベンゾイル基は低級アルキル基、低級アルカノイル基またはハロゲン原子から選択される一つまたは複数の基で置換されていてもよい。

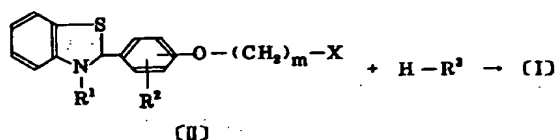
m は 1 ~ 6 を示す。

n は 3 ~ 5 を示す。以下同じ。]

本発明化合物〔I〕は血小板凝集阻害作用、カルシウム拮抗作用等の薬理作用を有し、狭心症、不整脈、血栓症等の治療薬として有用な化合物である。ベンゾチアゾリン誘導体についての報告は数多くあるが、本発明化合物の主骨格をなす 2-フェニルベンゾチアゾリン誘導体に関しては、特願昭56-144148号、特願昭57-153289号等に記載されているにすぎない。本発明者らはこれらの 2-フェニルベンゾチアゾリン誘導体について、さらに改良すべく鋭意研究した結果、優れた薬理作用を有する新規 2-フェニルベンゾチアゾリン誘導体を見出した。

本発明化合物〔I〕の合成法の一例として、式〔II〕で示される化合物と H--R^3 で示されるアミン誘導

体との反応がある。



〔式中、X はハロゲン原子を示す。〕

上記反応には特に必要な条件はなく、一般にアミン誘導体とハライドとの反応に用いられる方法を利用することができる。例えば、式〔II〕で示されるハライドとアミン誘導体を混合して加熱する方法や有機溶媒中でトリエチルアミン等の塩基の存在下で反応させる方法等が用いられる。

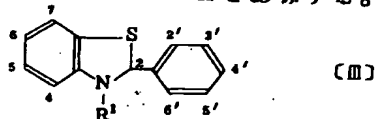
本発明化合物〔I〕は酸付加塩の形態とすることができる。酸付加塩は無機酸または有機酸を使用し常法にて得られる。医薬として許容される塩を形成する適当な酸の例として、塩酸、硫酸、リン酸、乳酸、マレイン酸、フマル酸、シユウ酸、コハク酸、クエン酸、メタンスルホン酸、パラトルエンスルホン酸等が挙げられる。

本発明化合物〔I〕は 1 個またはそれ以上の不飽和

炭素原子を有するので立体異性体が存在する。これらはいずれも本発明の範囲に包含される。

以下に実施例を示す。

NMRにおける各プロトンの帰属は下記式〔Ⅲ〕の番号に従う。但し、帰属していない芳香族プロトンはアロマチックHと総称する。



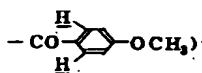
また、 $-OCH_3$ 基は上式〔Ⅲ〕の $C_{2'}$ 位から $C_{6'}$ 位までのフェニル基に置換されている場合は $-OCH_3(P)$ 、銅銀アミン部に置換されている場合は $-OCH_3(A)$ と帰属した。

実施例 1.

3-アセチル-2-〔5-メトキシ-2-〔4-〔4-(4-メトキシベンゾイル)-1-ピペリジン〕ブトキシ〕フェニル〕ベンゾチアゾリン・シユウ酸塩の製造

3-アセチル-2-〔2-〔4-クロロブトキシ〕-5-メトキシフェニル〕ベンゾチアゾリン

6.36~6.73 (3H, m, C_6 -H及び $-CO_2H \times 2$),
6.73~7.39 (8H, m, C_2 -H及びアロマチックH),
7.73~8.22 (3H, m, C_4 -H及び



実施例 1 と同様の操作にて次の化合物を得る。

3-アセチル-2-〔2-〔4-〔4-〔2-ヒドロキシ-3-(1-ナフチルオキシ)プロピル〕-1-ピペラジニル〕ブトキシ〕-5-メトキシフェニル〕ベンゾチアゾリン・ニマレイン酸塩

収率 80%

融点 174~175℃分解 (メタノール-アセトニトリル)

IR (KBr, cm^{-1})

3392, 1665, 1615, 1571, 1484,

1462, 1376, 1354, 1269, 1206,

1099, 863, 766, 746

NMR (DMSO- d_6 , δ)

特開昭60-139679(3)

(1.60 δ)と4-(4-メトキシベンゾイル)ピペリジン(1.78 δ)を110~120℃で2時間加熱攪拌する。室温にもどしクロロホルム(30 ml)に溶解する。クロロホルム層を1規定塩酸, 1規定水酸化ナトリウム水溶液, 飽和食塩水の順で洗浄後, 無水硫酸マグネシウムで脱水する。クロロホルムを減圧留去し, 得られる油状残液にシユウ酸(0.36 δ)のメタノール(5 ml)溶液を加えることにより復配化合物1.21 δ (収率45%)を得る。

融点 97~103℃(メタノール-アセトニトリル)

IR (KBr, cm^{-1})

1664, 1597, 1465, 1377, 1276

NMR (DMSO- d_6 , δ)

1.50~2.36 (8H, m, $-OCH_2(CH_2)_2CH_2N(CH_2)_2-$),

2.22 (3H, s, $-COCH_3$),

2.73~3.85 (7H, m, $-CH_2N(CH_2)_2CH-$),

3.62 (3H, s, $-OCH_3(P)$),

3.88 (3H, s, $-OCH_3(A)$),

3.92~4.32 (2H, m, $-OCH_2-$).

1.57~2.03 (4H, m, $-OCH_2(CH_2)_2CH_2N<$),

2.22 (3H, s, $-COCH_3$),

2.60~3.40 (12H, m, $-CH_2N(CH_2)_2N(CH_2)_2-$),

3.53 (3H, s, $-OCH_3(P)$),

3.73~4.57 (6H, m, $-OCH_2-$ 及び

$-CHCH_2O-$),

OH

6.10 (4H, s, H 及び H' $\times 2$),

6.42 (1H, d, $J=2.0Hz$, C_6 -H),

6.60~8.40 (14H, m, C_2 -H及びアロマチックH),

8.50~10.67 (4H, br, $-CO_2H \times 4$)

3-アセチル-2-〔2-〔4-〔N-(2-インダニル)-N-メチルアミノ〕ブトキシ〕-5-メトキシフェニル〕ベンゾチアゾリン・シユウ酸塩

収率 60%

融点 192.5~194℃分解 (メタノール-アセトニトリル)

IR (KBr, cm^{-1})

1.66~2.32 (8H, m, $-\text{OCH}_2(\text{CH}_2)_2\text{CH}_2\text{N}(\text{CH}_2)_2$),
 2.23 (3H, s, $-\text{COCH}_3$),
 2.75~4.05 (7H, m, $-\text{CH}_2\text{N}(\text{CH}_2)_2\text{CH}-$),

3.53 (3H, s, $-\text{OCH}_3(\text{P})$),
 4.06 (2H, m, $-\text{OCH}_2-$),
 6.04 (2H, s, $\text{H}-\text{C}=\text{C}-\text{H}$),
 6.45 (1H, d, $J=3.0\text{Hz}$, C_6-H),
 6.67~7.38 (5H, m, アロマチックH),
 6.93 (1H, s, C_2-H),
 7.45 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$, $-\text{CO}-\text{C}_6\text{H}_4-\text{Cl}$),
 7.70~8.19 (1H, m, C_4-H),
 7.97 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$, $-\text{CO}-\text{C}_6\text{H}_4-\text{Cl}$)

3-アセチル-2-[2-[4-[4-(α -ヒドロキシベンジル)-1-ピペリジル]プトキシ]-5-メトキシフェニル]ベンゾチアゾリン・マレイン酸塩

収率 45%

融点 184~188°C (メタノール-アセトニトリ

ル)

IR (KBr, cm^{-1})

3370, 1638, 1571, 1487, 1476,
 1457

NMR (DMSO- d_6 , δ)

0.83~2.06 (9H, m, $-\text{OCH}_2(\text{CH}_2)_2\text{CH}_2\text{N}(\text{CH}_2)_2\text{CH}-$),
 2.20 (3H, s, $-\text{COCH}_3$),
 2.55~3.47 (6H, m, $-\text{CH}_2\text{N}(\text{CH}_2)_2-$),
 3.54 (3H, s, $-\text{OCH}_3(\text{P})$),
 3.80~4.20 (2H, m, $-\text{OCH}_2-$),
 4.20~4.50 (1H, m, $-\text{CH}-$),
 4.83~5.73 (1H, br, $-\text{OH}$),
 5.97 (2H, s, $\text{H}-\text{C}=\text{C}-\text{H}$),
 6.35~7.47 (12H, m, C_2-H 及びアロマチックH),
 7.60~8.10 (1H, m, C_4-H)

3-アセチル-2-[2-[4-(2-フェニルチアゾリジン-3-イル)プトキシ]-5-メトキシフェニル]ベンゾチアゾリン・塩酸塩

収率 50%

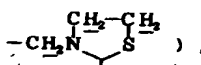
融点 199~200.5°C

IR (KBr, cm^{-1})

3700~3100, 2800~2100, 1670,
 1498, 1463, 1378, 1273, 1210

NMR (DMSO- d_6 , δ)

1.44~2.29 (4H, m, $-\text{OCH}_2(\text{CH}_2)_2\text{CH}_2\text{N}<$),
 2.20 (3H, s, $-\text{COCH}_3$),
 2.68~4.21 (8H, m, $-\text{OCH}_2-$ 及び



3.57 (3H, s, $-\text{OCH}_3(\text{P})$),
 5.75 (1H, s, $-\text{N}-\text{S}-$),
 6.44 (1H, d, $J=2.5\text{Hz}$, C_6-H),
 6.77~8.08 (12H, m, C_2-H 及びアロマチックH),
 11.23~12.80 (1H, br, HCl)

3-アセチル-2-[5-メトキシ-2-[4-(2-(3,4,5-トリメトキシフェニル)

チアゾリジン-3-イル)プトキシ]フェニル]ベンゾチアゾリン・塩酸塩

収率 60%

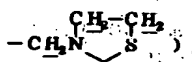
融点 148~151°C

IR (KBr, cm^{-1})

3700~3100, 2800~2200, 1664,
 1591, 1498, 1464, 1424, 1377,
 1327, 1273, 1208, 1122

NMR (DMSO- d_6 , δ)

1.45~2.31 (4H, m, $-\text{OCH}_2(\text{CH}_2)_2\text{CH}_2\text{N}<$),
 2.18 (3H, s, $-\text{COCH}_3$),
 2.54~4.23 (8H, m, $-\text{OCH}_2-$ 及び



3.54 (3H, s, $-\text{OCH}_3(\text{P})$),
 3.64 (3H, s, $-\text{OCH}_3(\text{A})$),
 3.79 (6H, s, $-\text{OCH}_3(\text{A}) \times 2$),
 5.62 (1H, br s, $-\text{N}-\text{S}-$),
 6.39 (1H, d, $J=2.5\text{Hz}$, C_6-H),
 6.63~7.34 (8H, m, C_2-H 及びアロマチック

H),

7.72~8.13 (1H, m, C₄-H),

11.96~13.04 (1H, br, HCl)

3-アセチル-2-[2-[5-[N-(2-ベンゾイルオキシエチル)-N-シクロヘキシル]アミノ]ベンチルオキシ-5-メトキシフエニル]ベンゾチアゾリン・塩酸塩

収率45%


IR(KBr, cm⁻¹)

2928, 1719, 1665, 1494, 1464,

1376, 1270, 1208, 1106, 712

NMR(DMSO-d₆, δ)0.84~2.33 (16H, m, -OCH₂(CH₂)₂CH₂N-(CH₂)₆),2.19 (3H, s, -COCH₃),2.93~3.81 (5H, m, -CH₂N^{CH}₂-),3.55 (3H, s, -OCH₃(P)),3.82~4.21 (2H, m, -OCH₂-),4.58~4.92 (2H, m, -CH₂OCO-),6.42 (1H, d, J=2.5 Hz, C₆'-H),6.64~7.68 (9H, m, C₂-H及びアロマテック

H),

7.70~8.08 (3H, m, C₄-H及び-CO-)

10.88~11.30 (1H, br, HCl)

実施例3.

3-アセチル-2-[2-[4-[4-(4-フルオロベンゾイル)-1-ピペリジル]ブトキシ]-5-メトキシフエニル]ベンゾチアゾリン・マレイン酸塩の製造

3-アセチル-2-[2-(4-ブロモブトキシ)-5-メトキシフエニル]ベンゾチアゾリン (1.53g) と 4-(4-フルオロベンゾイル)ピペリジン (0.73g) のエタノール (4 ml) 溶液に、トリエチルアミン (0.35g) を加え、1.5時間加熱還流する。室温にもどしクロロホルム (20 ml) に溶解し、1規定塩酸、水、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液、飽和食塩水の順で洗浄後、無水硫酸マグネシウムで脱水する。クロロホルムを減圧留去して得られる油状残産をシリカゲルカラムクロマトで精製する。得られた油状物 (1.28g) を酢酸エチル (5 ml) に溶解し、マレイン酸

(0.26g) の酢酸エチル (5 ml) 溶液を加えることにより標記化合物 1.31g (収率55%) を得る。

融点146~149℃(酢酸エチル-エタノール)

IR(KBr, cm⁻¹)

1671, 1594, 1494, 1462, 1375,

1348, 1274, 1232, 1208

NMR(DMSO-d₆, δ)1.43~2.40 (8H, m, -OCH₂(CH₂)₂CH₂N^{CH}₂-),2.23 (3H, s, -COCH₃),2.77~3.87 (7H, m, -CH₂N^{CH}₂-),3.57 (3H, s, -OCH₃(P)),3.87~4.36 (2H, m, -OCH₂-),6.03 (2H, s, )6.43 (1H, d, J=2.5 Hz, C₆'-H),

6.60~7.22 (7H, m, アロマテックH),

7.19 (1H, s, C₂-H),7.60~8.12 (3H, m, C₄-H及び-CO-)

3-アセチル-2-[2-[4-(4-ベンジルカルボニル-1-ピペリジル)ブトキシ]-5-メトキシフエニル]ベンゾチアゾリン・マレイン酸塩

収率55%

融点152~154℃(メタノール)

IR(KBr, cm⁻¹)

3400, 1706, 1669, 1571, 1490,

1458

NMR(DMSO-d₆, δ)0.86~2.36 (8H, m, -OCH₂(CH₂)₂CH₂N^{CH}₂-),2.23 (3H, s, -COCH₃),2.58~3.76 (7H, m, -CH₂N^{CH}₂-),3.57 (3H, s, -OCH₃(P)),3.79~4.26 (2H, m, -OCH₂-),3.89 (2H, s, -COCH₃-),6.03 (2H, s, )6.12 (1H, d, J=2.0 Hz, C₆'-H),6.26~7.36 (11H, m, C₂-H及びアロマテック

H),

実施例3と同様の操作にて次の化合物を得る。

7.58~8.08 (1H, m, C₄-H)

実施例 4.

3-アセチル-2-[2-(3-(4-(4-フルオロベンゾイル)-1-ピペリジン)プロポキシ)-5-ニトロフェニル]ベンゾチアゾリンの製造

3-アセチル-2-[2-(3-クロロプロポキシ)-5-ニトロフェニル]ベンゾチアゾリン (3.93g) のアセトン (20 ml) 溶液にヨウ化ナトリウム (1.50g) を加え、2時間加熱還流する。室温にもどし、アセトンを減圧留去したのちベンゼン (20 ml) および 4-(4-フルオロベンゾイル)ピペリジン (4.20g) を加え、9時間加熱還流する。室温にもどし、クロロホルム (100 ml) を加える。クロロホルム層を1規定塩酸、1規定水酸化ナトリウム水溶液、飽和食塩水の順で洗浄後、無水硫酸マグネシウムで脱水する。クロロホルムを減圧留去して得られる油状残物をシリカゲルカラムクロマトで精製し標記化合物 3.10g (収率 55%) を得る。

融点 169~172℃

IR (KBr, cm⁻¹)

1665, 1588, 1508, 1489, 1460,
1449, 1376, 1330, 1262

NMR (DMSO-d₆, δ)

1.57~3.53 (13H, m, -OCH₂CH₂CH₂N(CH₂)₄CH-),
2.33 (3H, m, -COCH₃),
4.25 (2H, t, J=6.0Hz, -OCH₂-),
6.83~8.30 (12H, m, C₂-H及びアロマチックH)

出願人 参天製薬株式会社

代理人 滝川敏雄